



教育宮崎市

※ 令和6年度から、電子版のみでの発行となります



秋号の表紙は

宮崎市グローバルチャレンジ支援事業において
マレーシアで研修を行った様子です



CONTENTS

- 01 教育委員会の取組
- 02 新規ALTの紹介
- 03 市内の学校紹介
- 04 教育委員コラム



大宮小学校の運動会練習の様子



清武中学校のあいさつ運動の様子



Think globally, Act locally. マレーシア研修をととして



8月2日（土）から16日（土）までの15日間、宮崎市の中学生20名が、マレーシアでの海外研修に参加しました。この研修の目的は「英語によるコミュニケーション能力の育成」と「豊かな国際感覚の醸成」です。これらの目的を達成するため、事前研修では来日中の留学生（大学生）とSDGsの観点で地域の課題やその解決策について考えました。また、現地では語学学校で英語を学んだり、現地の学校（インターナショナルスクール）で同年代の生徒と英語で協議を行ったりしました。現地の同年代の生徒の英語力の高さに圧倒されながらも、良い刺激を受けその後の意識に変化がでたようです。

また、ホームステイも体験し、マレーシア文化の豊かさや家族の温もりを感じることができました。地元宮崎に愛着をもちながら、グローバルな視点を身に付ける貴重な研修となりました。



（問） 企画総務課 0985-85-1857

令和7年度新規ALTの紹介

02

本年度、宮崎市に着任した
新しいALT（外国語指導助手）を
紹介します♪

- ① 氏名
- ② 出身地
- ③ 趣味・特技
- ④ 担当中学校区

**先生方のパートナーとして、
子どもたちへの国際理解教育や、
英語教育に携わります！**



- ① TUNNEY SIMON
タニー サイモン
- ② アイルランド
- ③ ピアノ、フランス語（少し）、乗馬、ラグビー・バスケ観戦、日本の音楽
- ④ 木花中学校区

- ① ROTHWELL DANIEL
ロースウェル ダニエル
- ② アメリカ
- ③ 体操、ブレイクダンス、ピアノ、中国語、中国書道、逆立ち（30秒）
- ④ 大淀中学校区



- ① WILLIAMS ZAKARY
ウィリアムス ザカリー
- ② カナダ
- ③ サーフィン、写真、グラフィックデザイン
- ④ 青島中学校区



- ① ALDRIDGE CAITLIN
アルドリッジ ケイトリン
- ② アメリカ
- ③ 陶芸、読書、旅行
- ④ 檉中学校区



（問） 教育情報研修センター 0985-28-2426

教育宮崎市



大宮小学校

大宮小学校
ホームページ▶



あいさつ日本一を目指す大宮小

大宮小学校では一人一人が「命(心)を大切にすること」「目標をもつこと」「自慢できる学校にすること」、そのために何が必要かをよく考えることができる子どもの育成を目指して、子どもも教師も意識を高め学校生活を送っています。

6年生に大宮小学校の自慢できるところを聞いてみると、「運動会に向けてみんなでがんばるところ」「調理員さんが心を込めておいしい給食を作ってくれるところ」「礼儀正しく行動できるところ」などの意見が聞かれました。

これからも一人一人がよく考えて、よりよい大宮小学校を目指していきます。

秋晴れのもと、
気持ちのこもった
運動会の全体練習



シンボル
アオギリの木

清武中学校

清武中学校
ホームページ▶

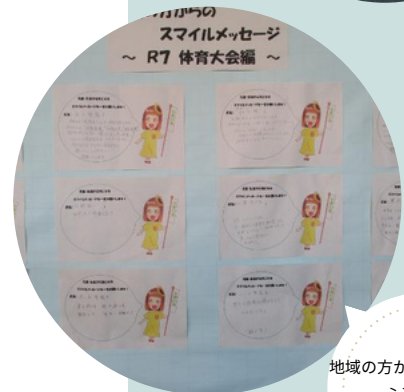


地域との連携にチャレンジ！

本校は地域との連携に力を入れています。清武まちづくり協議会から依頼されたボランティア活動への協力、清武地区青少年育成連絡協議会と連携した生徒会を中心とするあいさつ運動への参加、あいさつに関する標語の作成など、様々な形で地域との交流を深めています。

また、民生委員・児童委員の方々との定期的な連絡会など、学校行事以外にも地域の方に学校に足を運んでいただき、生徒に「スマイルメッセージ」という心温まるメッセージをいただいています。これからも、地域の方々と協力し合いながら、清武のまちを盛り上げていきたいと思ひます。

地区青少年育成連絡協
議会と生徒会が連携し
た「あいさつ運動」



地域の方からいただいた
心温まる
「スマイルメッセージ」



自ら選択し決定できる主体的な学び

タイトルは、第三次宮崎市教育ビジョンの施策の一つに掲げられているものです。「どんな学び方だろうか」、「効果はどのように現れるのだろうか」と考えていたところ、答えにつながる実践にふれる機会を得ました。



教育委員
小林 博典

宮崎市立国富小学校3年生の学級担任、種子田(たねだ)かおり先生による、算数「重さの計算の仕方を考えよう」の授業を参観いたしました。開始からしばらく、重さの計算についての確認が行われた後、子どもたちには、複数の学習方法から自分に合う学び方を自ら選択・決定するための時間が与えられました。教科書の問題、スキル(問題集)、プリントの発展問題、タブレットのAIドリル・・・学ぶ方法を選び、自分のペースで進めていく。教室後方には、チャレンジコーナーが用意され、秤や体重計で「重さの計算」をリアルに体感し、確認できる工夫も図られていました。

子どもたちは眼を輝かせ、夢中になって活動しました。まとめの時間になると、子どもたちは「ふりかえり」をプリントに書き、タブレットで撮影してクラウド環境に提出し、全体で共有、互いの学びを見比べ確かめ合っていました。

自分の学びを言葉にして仲間と分かち合い、自分らしい歩みを見つけていく子どもたちの姿は、本当に頼もしく、あたたかく見守りたくなるものです。そのような素晴らしい教育実践と、生き生きと学びに向かう子どもたちの姿にふれることができ、感謝の思いで胸がいっぱいになりました。